

令和3年9月 大槌町議会定例会

行政報告

令和3年9月2日

大 槌 町

本日、ここに令和3年9月大槌町議会定例会の開会にあたり、6月定例会以降における町政運営について、ご報告を申し上げます。

1 はじめに

はじめに、訃報を申し上げます。震災後、がれきを植樹マウンドに利用する「いのちを守る森の防潮堤」を提唱し、「平成の杜」整備にご尽力をいただいた、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏が、去る7月16日にご逝去されました。ここに生前のご厚誼に深く感謝いたしますとともに、謹んでお悔やみを申し上げます。

スポーツ愛好者の中で、競技志向の高いシニア世代を対象としたスポーツの祭典である日本スポーツマスターズ大会 2022 の開催地が岩手県に決定し、去る7月12日、実行委員会設立総会が岩手教育会館において行われました。

そして、来年9月23日から開催される13競技のうち、軟式野球の開催会場の一つとして、本年度より供用開始しております大槌町営野球場が決定しました。今後も競技スポーツの振興やスポーツを通じた地域・世代を超えた交流人口の拡大につながるよう大会の成功に向けて取り組んでまいります。

東京2020オリンピック競技大会の開会式10日前にあたる、去る7月13日、国立競技場近くに東日本大震災の復興支援への感謝を伝える「復興のモニュメント」が設置されました。このモニュメントは、岩手、宮城、福島の前被災3県の仮設住宅で使われたアルミ建材を再利用し、3県で一体ずつ製作され、本県

は、東京藝術大学の学生と大槌高校の生徒の皆さんによるワークショップが行われ、製作されたものであります。本年12月以降に選手のサインを加え、大槌町文化交流センター「おしゃっち」に移設設置される予定となっております。

日本経済新聞8月28日掲載の企画、「現代の美しい木造建築」というテーマのランキングで、全国約30の特徴ある建築物の中から「大槌町文化交流センターおしゃっち」が第2位に選ばれました。選考は建築家や大学教授等により行われ、「木材の軽快さを地域の材で表現している」や、「『みんなで支え合う』という復興のシンボルにふさわしいデザインである」というコメントをいただいております。ちなみに第1位は、東京都の「有明体操競技場」です。

2 県立釜石病院の普通分娩機能休止に伴う県議会への陳情及び妊産婦支援策について

県立釜石病院の普通分娩機能休止に伴う県議会への陳情及び妊産婦支援策について申し上げます。

去る4月21日、野田釜石市長と菊池釜石議会議員、小松町議会議員、小泉釜石医師会会長と共に、「釜石圏域における周産期医療センターの存続」について、岩手医科大学の小川理事長に対して要望してきたところであります。

また、去る6月30日、野田釜石市長と釜石地区選出県議会議員の小野議員と岩崎議員と共に「岩手県立釜石病院の医師確保及び機能強化と充実を求める」として、普通分娩の確保を岩手県議会議員長へ陳情して来たところであります。

町は、妊産婦が安心して産み、育てる環境を確保するため、既存の県の補助事業であるハイリスク妊産婦交通費等支援事業のほかに、町独自のハイリスク以外の妊産婦に対する支援として通院費助成と待機宿泊助成の予算を本定例会にご提案いたします。

3 新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種の状況と今後の見通しについて

次に、新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種の状況と今後の見通しについて申し上げます。

8月22日現在、接種済みの方と予約の方を合算しますと、町全体で8,635人、82.11%の方々が接種又は接種予定となっております。

64歳以下の接種については、福祉、教育、経済の分野に従事する方を優先接種の対象に加え接種を進めております。

また、進学時における移動の制限が想定されることから、町内に住所を有する大槌学園、吉里吉里学園の9年生について、進学先の選択肢を狭めないため優先接種の対象に加え、また、高校3年生も予約を開始しております。

しかしながら、9月以降、国からのワクチン配分が大幅に減少する見込みとなり、今後の安定的なワクチンの供給の見通しが立たなくなったため、来たる9月4日以降の予約受付を一時停止する事について、広報おおつちの臨時号にて町民の皆様へお知らせしたところであります。

予約受付を早期に再開するため、去る8月31日、県の野原保健福祉部長と面談し、当町へのワクチン配分について、地域の状況に応じて調整し、確実に供給していただくよう強く要望したところであります。

引き続き、関係機関と協力し、連携を図り、ワクチンの安全かつ確実な接種に向け取り組んでまいります。

4. 大槌町行政評価の結果報告について

次に、行政評価の取り組みについて申し上げます。

去る8月11日、大槌町総合開発計画評価委員会を開催し、第9次大槌町総合計画実施計画に掲げる「48項目の目標指標の推移」や「昨年度の取り組み」に加え、「新型コロナウイルス感染症対応の取り組み」について、委員10名から専門的な視点や知見からご意見をいただいたところであります。

また、各委員の専門分野における「現場の状況」や「将来の希望」について、情報共有したところです。

各委員からいただいた意見を、今後の施策形成に活かし、限られた資源を有効活用した行政運営に努めてまいります。

5 各分野の取り組み方針

【産業・観光】

(地域おこし協力隊の導入について)

次に、地域おこし協力隊の導入について申し上げます。

地域おこし協力隊については、観光、産業振興及び防災・震災伝承といった隊員の活動報告をSNS等で掲載し、活動を見える化しPRに取り組んでおります。

また、今後も隊員の受入機関と連携し、更なる事業展開のため、次年度の隊員募集に係る準備を進めるとともに、隊員の活動終了後を見据えた地域への定住・定着に継ぎ続けてまいります。

(岩手大槌サーモンの取り組みについて)

次に、岩手大槌サーモンの取り組みについて申し上げます。

岩手大槌サーモンについては、去る7月23日、2期目の水揚げが終了し、計画量200トンに対し、水揚量320トンという成果を上げ、当町海域が魚類養殖に適していることを改めて示しました。

また、去る6月13日、吉里吉里フィッシャリーナを会場に第1回岩手大槌サーモン祭りを開催し、約3,000人に来場いただきました。会場ではサーモンのつかみどり、サーモン寿司とお吸い物のお振舞のほか特売会を行い、県民の方々に岩手大槌サーモンの美味しさを堪能していただき、大槌ブランドとしてPRすることができました。

このほか、本年10月には、岩手県より魚類養殖における本免許が交付される予定であり、海面における魚類養殖事業も拡大される見込みであることから、

新おおつち漁協等の関係機関と共に立ち上げた岩手大槌サーモン推進協議会を中心に、町内一丸となった取り組みを進めてまいります。

(磯焼け対策について)

次に、磯焼け対策について申し上げます。

磯焼け対策については、町内の漁業関係者を中心に大槌町藻場再生協議会が設立され、水産多面的機能発揮対策事業や岩手県の黄金のウニ収益力向上推進事業等を活用し、継続して藻場の再生、磯根資源の保全及びウニの有効活用に取り組んでまいります。

(生産性向上と産地化に向けて)

次に、町産品の生産性向上と産地化に向けた取り組みについて申し上げます。

町産品の生産性向上及び産地化については、岩手大槌サーモン、大槌鹿（おおつちじか）等といった大槌ブランドの確立を進めているところであります。

また、生産性向上及び労力確保の取り組みとして、農福連携による取り組みを継続しているほか、本年度は大槌町シルバー人材センターによるピーマンの収穫、選果業務の請負実証を行っているところであり、今後も農林水産業全般における生産性向上の取り組みを進めてまいります。

(アニメ制作について)

次に、アニメを活用した取り組みについて申し上げます。

大槌町が舞台のモデルの一つとなっている、家族の絆を描くアニメ映画「岬のマヨイガ」が去る8月27日に公開され、大盛況の上映となっているとのことです。今後も町内事業者等で構成される事業部会と連携し、アニメのモデルとなった場所の聖地巡礼町内周遊マップの作成のほか、地元商業者の新しい顧客獲得、PR方法の刷新等による経営力底上げと売上額の増加を目指してまいります。

(復興ありがとうホストタウンについて)

次に、台湾とサウジアラビアを相手とする復興ありがとうホストタウンについて申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、東京2020オリンピック大会終了後に選手の方々を当町にお招きして、町民との交流を行う事は叶いませんでした。

しかしながら、台湾については広報おおつちでの選手紹介や大槌高校の生徒による応援メッセージ動画の作成のほか、野田村、福島県北塩原村ほか6自治体と連携し、応援メッセージを作成し、台湾の地下鉄や新聞等で掲載する等の取り組みを行いました。

サウジアラビアについては、大槌高校の生徒による応援メッセージ動画の作成のほか、東京都調布市、愛媛県新居浜市と連携し、大槌学園と大槌高校の生

徒によるサウジアラビアの国歌斉唱の制作やサウジアラビア関係者がオンライン上に集いオンライン交流会を開催しました。

台湾とサウジアラビアの皆さまからSNS等で多くの感謝のメッセージをいただきました。今後も東日本大震災で両国からいただいた支援の感謝を忘れず後世に伝え、引き続き両国をパートナーとして交流を行ってまいります。

【教育・文化】

(大槌高校魅力化の取り組みについて)

次に、大槌高校魅力化の取り組みについて申し上げます。

去る7月28日、大槌高校を会場に、第9回大槌高校魅力化構想会議を、岩手県教育委員会が主催する地域協働事業コンソーシアム会議と合同で開催しました。

大槌高校の先生方と構想会議の委員が9つのグループに分かれて、魅力化による変化や今後取り組みたい事項について、意見交換を行いました。

参加者からは、後輩に勧めたいと思えるような学校を目指して欲しい、先生が変わっても地域が支えながら取り組みを続けていく体制をとって欲しい、卒業しても町に帰ってきて後輩たちと関わり続けられる学校になって欲しい等の意見が出されました。

大槌高校に行きたい、行かせたい、この学校で教職員として働きたいと思えるような高校にしていきたいという皆さんの想いを改めて共有された会議と

なりました。

(社会教育振興及びスポーツ・文化について)

次に、社会教育振興及びスポーツ・文化について、申し上げます。

去る8月12日、東京2020パラリンピック聖火フェスティバルにおける大槌町採火式を開催いたしました。当日は雨の中、平成30年に行われた身体障がい者の全国スポーツ大会である「福井しあわせ元気大会」におきまして、「砲丸投げ」第4位、「ジャベリックスロー」第4位という好成績を収められた黒澤達己さんにより、城山公園内にある「大槌希望の灯り」から採火が行われ、県の集火・出立式に向けて無事に送り出すことができました。

オリンピック・パラリンピックをはじめとする各種スポーツ大会の開催を契機として、スポーツに対する機運が高まっていることから、引き続き、スポーツ振興に取り組んでまいります。

また、昨年度整備しました郷土財活用湧水エリアにおける湧水環境や多様な生態系を保全及び活用するための組織として、去る7月29日、第1回大槌町郷土財エリア保全活用委員会を開催いたしました。イトヨや湧水、植物等をはじめとする専門的知識を有する先生方や町内の学校や研究機関、地元の自然環境団体等からなる委員の皆様から、保全のあり方、活用のあり方について貴重なご意見を頂戴し、本年度から来年度にかけて、郷土財エリアの認知度を上げる期間と捉え、事業に取り組むことを確認したところであります。

(震災伝承について)

次に、震災伝承について申し上げます。

東日本大震災津波犠牲職員状況調査報告書をまとめ、先般、当該報告書を書籍化したことから、物故された職員のご遺族をはじめ、各自治体や図書館、震災伝承施設などに 326 冊配布を行ったほか、去る 7 月 26 日から一般の方々への販売を開始し、8 月 26 日現在、241 冊の実績となっております。

この報告書に盛り込まれた、記録と教訓を広く後世に伝えるとともに、近年各地で起きている災害への備えに繋がることを切に望んでおります。

((仮称) 鎮魂の森整備事業の取り組みについて)

次に、「(仮称) 鎮魂の森整備事業」について申し上げます。

去る 6 月 18 日、鎮魂の森整備検討委員会を開催し、整備計画の変更と整備スケジュールの見直しについて審議いただき、今月、整備に向けた基本設計業務の入札を実施することとしております。契約締結後から本格的に業務が進む予定であり、令和 5 年度の竣工を目指し、鋭意業務を進めてまいります。

(震災伝承プラットフォームの構築について)

次に、震災伝承プラットフォームについて申し上げます。

町の震災伝承基本コンセプト「忘れない」「伝える」「備える」に根ざした活

動を、住民と行政が一体となった協働による震災伝承の取り組みとするため、去る8月19日、初回となる「大槌町震災伝承プラットフォーム運営会議」を開催いたしました。

会議の中では、委員7名に委嘱状を交付し、今後の震災伝承の取り組み方針などを議論いただいたところであります。

また、今月には、住民や各団体の方々の参画を想定した、震災伝承に向けた分野別ワーキンググループを開催する予定であり、多くのご意見をいただきながら、協働による命を守るための震災伝承活動の推進を強く進めてまいります。

【安全・快適】

(協働地域づくりの推進について)

次に、協働地域づくりの推進について申し上げます。

去る6月24日、「令和3年度大槌町コミュニティ協議会」を開催しました。

開催にあたっては、感染症予防に十分留意をし、56人の方々の参加を得て無事開催することができました。

今回の会議では、現在の地域課題や今後各地域や地域連携により取り組もうとする活動について今年度からスタートした「大槌町元気なふるさと応援センター」が地域と共に取り組もうとしている活動内容を共有しながら、意見交換を行いました。コロナ禍において、各地域の活動や話し合いが制限されるなか、地域やNPO、住民有志団体、役場が地域づくりについて共に考える良い機会

となりました。

今後も「大槌町協働地域づくり推進指針」に掲げる「多様な主体の連携・共創の場の創出」に様々な形で取り組んでまいります。

(災害に強いまちづくりの推進について)

次に、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

去る6月23日、防災会議を開催しました。

今回の会議では、防災行政に多様性を図るため、新たに6名の女性委員を委嘱し、大槌町地域防災計画の修正、土砂災害警戒区域内における避難所指定に向けた方針説明、指定緊急避難場所の見直しの方針を説明しました。

土砂災害警戒区域内における避難所指定については、今後対象となる施設の地域に出向き、地区住民の皆さんと土砂災害の危険度についての認識共有を行ったうえで、地域の皆さんと避難所指定のあり方について協議を行い、今後の対応について合意形成を図っていきたいと考えております。

また、災害協定の締結について、本年度、食料品や日用品、燃料等の生活物資の安定供給を目的に、4つの団体と災害協定を締結したほか、電動車両等による電力の確保を目的に、1団体と災害協定を締結いたしました。

今後も物資調達体制強化、災害協定の更なる締結と実効性確保に向けて引き続き取り組んでまいります。

(地域公共交通計画の策定について)

次に、令和3年度大槌町地域公共交通計画の策定について申し上げます。

町では、6月から8月にかけて町内の公共交通の現状と課題を把握するため交通事業者と地域住民を対象に、ヒアリングを実施したところです。

また、去る7月30日から8月11日までを期間として、町民1,200人を対象にアンケートを実施し、調査結果を取りまとめているところです。

今後は、町民の皆様から頂いたご意見や課題等を踏まえ、交通事業者と共に持続可能で効率的な公共交通体系の構築を目指し、引き続き、大槌町地域公共交通計画の策定に取り組んでまいります。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、人事案件や条例の改正、補正予算案等をご提案申し上げます。

何卒よろしくご審議の上、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。